

買い物袋持参と環境保全

市民協働研究会委員 栗本明美

大人から子どもまで誰もがする買い物を通じて、ごみ減量としての具体的な行動をしようと市民団体で、マイバック持参運動に取り組みました。その活動の報告を通じて、市民と市役所の協働について考えたいと思います。

運動を始めるにあたって、まず、江南の特産品であるカーテン地で買い物袋を作り、市役所やスーパーに意見を聞きました。市役所はごみ減量になる、スーパーは経費削減になるとのことで賛同を得、「買い物には買い物袋をもって行きましょう」と大いに啓発活動を行いました。

スタンプカードの導入、袋持参の呼びかけ等、市役所と共に、スーパーへの対応を求めたり、市の広報への掲載、市民へのアンケート実施等と、買い物袋を利用しやすい雰囲気、状況を作るために市役所、スーパー、市民団体と一緒に取り組みました。また、市民団体でポイント柄を公募し作ったオリジナルバックは有料ですが大変好評で、福祉施設「くるみの里」を通じ、1万枚以上販売しました。

平成12年4月には市役所も市内全世帯に4種類の袋の中から希望のものを選ぶという形で、無料配布を実施しました。

運動を始めて10年以上経ちます。マイバック持参運動はごみ減量だけでなく、地球温暖化防止、資源を大切にするなど環境問題を考えた生活スタイルに変えていく意識改革にもつながります。さらに運動を進めるためには地域での取り組みが必要です。

江南市のごみ分別指導員研修会が今年度から地域単位で開催されることになりました。この集まりが環境の地域活動コミュニティの組織として地域でごみ減量、環境問題の話ができるようになれば地域とつながりの大きいスーパーでも買い物袋持参運動はより進めやすいと思います。マイバック持参は浸透しつつあります。最近の調査では、店舗によって差はありますが持参率は13%~32%で、時間帯によっては45%のところもあります。

協働の思いで取り組めた事例だと思いますが、課題も多くあります。

- ・お互いのコミュニケーション不足や職員の異動による対応の変化
- ・市民団体のメンバーの入れ代わり、活動のマンネリ化など
- ・IT社会において情報発信がうまくできず、ネットワークづくりができなかったこと
- ・行政の都合や仕組みを理解できないなど（毎年、行政と一緒に調査をし、共通のデータと認識をもつという事ができていません。）

活動を通じて、協働でするとき大事なことは次の3点が重要だと思います。

- 1.自由にお互いの意見が言い合える雰囲気がある
- 2.意見を苦情と受け止めるのではなく、お互いにこうしたいと願う心、想う心を理解する
- 3.日ごろから積極的に話し合いの場を持ち、お互いに理解を深める努力をする

地域課題を協働で取り組もうとする場合、まず、話し合う場、学びあう場、行動する場に参加することから始まります。参加の場をより多くの方が活用できるよう考え、呼びかけをしていく必要があります。参加する場は知恵や情報の交換ができ、人と人とのつながりを生み、お互いに協力したり、共同する積み重ねで、江南市のまちづくりができると思います。

そのためにも、協働をスムーズに行うためのルールづくりが求められます。